

令和3年度 第3回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和4年2月22日（火）午前10時から
場所 市役所議会棟3階 全員協議会室

出席委員 14名
欠席委員 0名
事務局 9名

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

第2回目では、令和4年度の商工政策について、カーボンニュートラルやデジタル化など、中小業者の支援について様々な御意見をいただいた。そうした中、厳しい財政状況で不十分かもしれないが、可能な限りそのような御意見を反映した予算を作成したところである。

令和4年度の予算概要について、旧庁舎を解体し、新しい庁舎を来月末から着工できる運びであり、この市役所の新庁舎に、総合庁舎から県の土木事務所や保健所等が入る予定である。農林業知と技の拠点については、県が整備するが来年度にオープンの運びとなっている。

また、競輪場については、メインスタンドを2年後に建て替える予定であり、玉祖地区に、広域の防災広場を整備することとしている。駅周辺では、駅北の公有地の売却、創業・交流センターの整備事業も計上している。

それから、まちなかの駐車場の一体的な利用可能についても計上している。

本日は、このような施策を御説明するが、問題はいかに執行していくかであるので、どのような執行がいいのかといった観点からも、委員の皆さまから御意見を賜りたい。

プレミアム付商品券については、子育て応援クーポン券は国の施策であるが、全国で結果的に現金ではなくクーポン券としたのが6市であった。そのうち、クーポン券を印刷して配る方針は、全国で本市を含め2市であったが、中小企業振興策としてはこの方が良かったと思っている。

本日は、来年度の予算と、中小企業振興基本計画の変更スケジュール案について御説明する。

【事務局】

○ 会議成立の報告

14名の委員中、14名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は

公開とする旨の報告。

【会長】 あいさつ

来年度の予算、特に予算の執行の方法について、ウクライナ情勢でエネルギーがどうなるのか。特に、中小企業は、そのコストを即引き上げると、状況によっては不況が起こるといふことも考えられる。

それから、コロナ禍において、オミクロン株はおさまってきているが、ステルスオミクロン、BA.2 という新しい株が出て、数ヶ月後にはまた山が来ることが十分予想できる状況で、来年度についても、厳しいことを前提として物事を考えていかなければならない。

こうなると、中小企業をどのように下支えしていくのかと同時に、コロナ対策、特にデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）があるが、対人接触をできるだけ避けるということは非常に重要になってくる。また、世界的には、グローバル経済の中で、カーボンニュートラルは避けられない。そういうことも同時に見据えて、進めていかなければならないということで、大きな問題を抱えていると認識している。

英知を結集して、この中小企業振興策を考えていく状況であるので、忌憚のない御意見を願う。

2 令和4年度中小企業振興施策について

【事務局】

～令和4年度中小企業振興施策について概要説明～

令和4年度防府市中小企業振興会議関係予算（案）の概要を一括説明。

意見等

【A委員】

モーダルシフトの利用促進事業補助金について、鉄道を使うと日数はかかるが安価で良いので、補助の対象を広げるほうに重点を置いたら、色々な企業が参画してくる可能性があると思うので周知をしていただきたい。

【事務局】

制度・運用等について周知していきたい。

【B委員】

駅周辺の駐車場利用料金の一本化は良いことであると思う。

鉄道高架事業が終わり、南北の交流という形で、商工会議所も色々なまちづくりに取り組んできたが、ハード整備に加えて、駐車場利用料金の一本化がされることで、利用者にとってどこに停めても行けるので交流が生まれるし、相互利用が生まれてくるので回遊性が生まれる。

「笑顔満開通り」について、特に、この笑顔満開通りの「通り」とつけられたことが、何

か動きが出てくるような形でいろんな動きがこのまちなかに出来てくるので非常に素晴らしいと思っている。

【会長】

駐車場利用料金の一本化について広報はどのようになっているか。

【事務局】

4月1日号の市広報でお知らせする。

【A委員】

企業立地の推進だが、過去、地域未来投資促進法に基づいて工場の増設を図ったが、調整区域であったため増設は出来ず、新設で行ったということがあった。

防府市は、昭和40年代に都市計画法等が出来たと思うが、当初は、企業立地については、乱開発を防ぐということが一つの目標。高速道路がない、新幹線がない時代にできた法律であり、例えば、インターチェンジの近くに通常は物流拠点ができるが、調整区域では新しいものが立てられない。

それから、調整区域で太陽光発電事業を行うのに、都会の業者が、1坪あたり1,500円、300坪程度を45万円で売ってくれないかと営業にくる。そうすると、調整区域では、田んぼや畑に対する意識が変わっているため、負の遺産であるなら売却したいとなり、仮に業者に売って、業者が太陽光発電事業を行ったとしても、撤退するときに放置していけば完全な負の遺産になってくるということが起こりうる。

規制の見直しが必要な時代ではないか。魅力あるまちにして、人を集めてそこで生活してもらおうとなれば、いろんなところを緩めていくとか、規制の見直しをする、そういったことが必要である。

【市長】

様々な意見を伺う中で、企業立地の観点、土地利用の観点から太陽光発電の話も含めて検討させていただきたい。

【会長】

企業立地の推進、防府第2テクノタウンだが、12区画あって売れたのは1区画だけということについて、どのように推進していくのか。

【事務局】

第2テクノタウンについては、12区画のうち1区画の販売であるが、そのほかの区画も大和ハウス工業、山口県と連携を取りながら企業の誘致を進めている。

【会長】

例えば、太陽光発電について、公設民営だとかPFIとかで、第2テクノタウンに工場を

作ってしまうことも考えられる。

例えば、そこで太陽光発電をやって、地域の事業者にも、低価格で電力を提供していく。いわゆるエネルギーの地産地消で価格の安定、それからカーボンニュートラルの推進とかも可能かもしれない。

事業計画を立てたときに、どの位の価格でできるのか分からないが、せっかく作った第2テクノタウンなので早めに対応する必要がある。コストをかけた分だけ、むしろマイナスが増えていってしまうという状況だと思うので、対策を考えていただきたいと思う。

【C委員】

創業・交流センターを整備することを応援しているところであるが、センターの活用を見ると、キッチンスペースは、飲食業のスタートアップ向けであり、物販のためのスペースはあったりするのか。

【事務局】

デザインプラザ防府に限定していないが、そういった物販であるとかサービスであるとか、お試しでできるようなことを考えており、場所はどこがいいのかといったところなども含めて創業支援で何かできないかを考えたい。

【D委員】

ルルサス防府で実験的にコワーキングスペースをされていたと思うが、ざっと見た感じで、コワーキングスペースはあまり使われてなくて、個室の方が割と利用されていると思う。

また、キッチンスペースについて、ルルサス防府の中に、同じようにキッチンがあると思うが、そことの相違点はどうか。

ルルサス防府で実験されていると思うので、コワーキングスペースはどれぐらい稼働するのか、Web会議とかも使うのかと疑問に思う。創業でやるならば、個室スペースを作った方がいいのではないか。

【事務局】

コワーキングスペースを作るにあたって、他市のコワーキングスペース等では、いわゆるフリースペース的な形では人気がなく、個室の方が人気があると聞いており、小さい個別ブースを設置する予定である。

Web会議室については、県のDX推進施設 Y-BASE と連携して、Y-BASE のセミナーを受けることが出来るようにするなど、利用者の立場に立った形で運用していきたいと考えている。

【会長】

ここについても、ハードだけ整えても難しいと思うので、例えば、どのように広報して、どのように使用を増やしていくか、どのように運営されるのかお伺いしたい。

【事務局】

施設の内容等について、全部市が決める訳ではなく、金融機関や中小企業の支援機関、専門家と会議を行い、こういう施設がいい、こういう運用がいいと協議した内容を、委員の皆様にご提示させていただいて、その意見を踏まえた形で運営していきたい。

ソフト面も、チェックをいただきながら、創業者の方、事業者の方のためになる取り組みをしていきたい。

キッチンスペースについても、飲食業の開業に向けては保健所の手続等がある。そうした手続きを実践して、半年なり1年ここで育てて、中心市街地に送り出したいとの意見をいただいて、スペースを設けさせていただいた。

御意見があれば、お伝え願えればと思っている。

【B委員】

今、コロナ等によって、ライフスタイルはすべて変わって、商売のスタイルも変わってきている。その中に、DXなりデジタル化が入ってきたときに、飲食店はコロナで非常に影響を受けて、飲食の提供の仕方も今から変えていかなければいけない。そこを、この創業・交流センターで1つのチャレンジの場所という意味合いも含めて市とも協議させていただいた。単に作って売るのでなく、売り方にしてもテイクアウトの方法にしてもこの場所でチャレンジをしてもらいたい。

これから創業する中小企業者にとってはいい機会である。特に、デジタル化が進むにつれて必要なのは中小企業にとって、どうすればデジタル化をうまく活用できるか、DXを活用できるかという気づく力、人間力を育てていくということが必要になってくる。

確かに、デジタル化はネットでやればいいという部分もあるが、そこに寄り添う人間がいないと特に創業者は心を折れてしまうところがあるので、そこをコネク22が寄り添っていく。デジタル化の時代だからこそ、寄り添って、気づく力や人間力を育てていける場所になってくる必要があると思うし、そこにコワーキングという形で、環境をきちっと整えて、場所を設けてれば、いろんな情報が集められる。1人じゃない、同士がいるんだというような場所になっていければいいと思う。

【会長】

創業を厚く支援していく施設として非常に意味があるだろう。そのために、いろんな工夫もされた施設として考えていると思うが、一方で、これがどれだけ活用されるのかについて、なかなか見えてこなかった。例えば、具体的には、このキッチンスペースで修行して、旅立ちとうという方がどのくらいいるのか。

例えば、計画の中で考えて行動される方がどれだけいるのか、いくらい施設でも使えなかったでは意味がないので、しっかりと広報することが必要である。

【副会長】

中小企業の省エネ設備導入支援事業について、個別の事業者の省エネ設備導入支援をすると思うが、個別の事業者だけではなく、例えばエリア毎、ブロック毎など、少し広い範囲で

エネルギーを最適化することも必要になってきていると思うが、そういった形での支援、施策を考えられているかお聞きしたい。

【事務局】

当面は個別の中小企業者への支援を考えており、エリア毎やブロック毎については、まずは個別を実施しながら考えていきたい。カーボンニュートラルに手探りの部分もあり、こういった施策が効果的なのかを見極めながら考えていきたい。

【副会長】

個別の事業者ごとに省エネ設備を入れていくことも大事だが、それをエリア毎であるとか少し広い捉え方で最適化していくことも非常に重要になってくるので、そういった観点で施策を考えていただきたい。

また、中小企業の環境マネジメントシステム導入などの支援はあるか。

中小企業向けにエコアクション21、環境省の環境マネジメントシステムがあり、中小企業に資金支援をしているので、そういったことも考えていただきたい。山口県内では窓口は無いが、北九州に支援窓口がある。

【事務局】

カーボンニュートラルの中小企業向けセミナーを開催し、その中で、個別相談会も実施する。

【E委員】

コロナ関連の融資の据置き期間が終わり償還が始まってきている。この相談業務が非常に重要で、コネク22の存在意義が重要になってきており、金融機関と連携して進めている。引き続き、コネク22を中心に柔軟な対応をしていただきたい。

借入れをしている方は償還が始まっているので、本当の苦しみは今からが本番になってくると思う。据え置き期間は多々あるが、返済が始まると、今まで以上の利益を出した上での返済が大前提になるので、通常に戻した上でそれ以上の利益を得るとなると、今まで以上のものを進めていかないと返済も苦しくなるのが実情だと思うので、アドバイスが必要になる。

【会長】

DXや省エネ設備支援は、すぐに効果が出てくるものではない。むしろ、売り上げをどう上げるか、コスト削減をどのようにして効率化を進めていくかについて、事業者の有利な形で進めていくことが必要である。

【B委員】

中小・小規模事業者等総合相談窓口の延長を予算化していただき非常に感謝する。

中小企業にとって、インボイス制度が始まるので、返済も含めて、この企業の課題が何かというのを見つけてあげることが重要である。例えば、デジタル化について、総合相談窓口

で相談し、課題解決しながらデジタル化を取り入れることが作業の効率化、成長につながる。

【会長】

商品を小型化すると、付加価値がつくだけではなくカーボンニュートラルにも影響してくる。非常に小さい商品を作っていくと、部材が少なくなるとか、加工のエネルギー使用量が減るなど、効率化が進んでいき、なおかつ価値化、付加価値が高められると思うので、アドバイスや具体的な支援も強化していくことが必要と思う。

【F委員】

女性や高齢者に向けたサポート事業があり、心強く思う。ハローワークでも高齢の方がまだまだ元気に働いている方が多く、5年前だと50代以上は半分以下だが、現在は、20～30代が減って、高齢の方が過半数を超えて相談に見えているので、まだまだ働きたい高齢の方を応援できる場所が1つでも増えるのはありがたい。

シルバー人材センターの事業と重複する部分もあると思うが、連携や住み分けについて教えていただきたい。

【事務局】

シルバー人材センターは最近登録者が減ってきていることもあり、働く機会の増進ということで、市が設置する相談窓口でも説明会等を開いて会員増を図っていきたいと考えている。

また、相談窓口でキャリアコンサルタントにより、ニーズなどをお聞きして、どういった働き方がしたいとか、条件とかを勘案して適切なアドバイスを行い、寄り添った支援をしたいと考えている。

【G委員】

デジタル人材育成事業だが、コロナが猛威を振るう中で、テレワークも一つの働き方であるが、すべてができるわけではないと思う。デジタル技術の習得支援が挙げられているが、自宅でテレワークをするための機材等の贈与や融資とかはあるのか。

【事務局】

必ずしも機材が必要な仕事ばかりではなく、スマホでもできるような仕事もあり、なかなか外出が難しいという方でも可能な仕事のニーズもあると聞いているので、そのような方の支援もしたいと考えている。

【D委員】

人材育成系の支援事業は多いと思うが、商工会議所も合わせて、結果を返してもらいたい。例えば、デジタル人材育成事業も幅広いと思うので、セミナーによって、それが果たして本当に役に立ったのか、実際に就職に繋がったのかの結果が欲しい。その上で新しい事業をやる方がよい。高齢の方で就職希望の方が増えていると思うが、こういうことをやったから良かったとか悪かったとかの結果の報告が欲しい。

【事務局】

いろいろなニーズ等もお聞き、検証しながら改善していきたい。

【会長】

例えば、IT化を進めていく人材育成、商品の売り方などをニーズもあると思うが、防府として何が必要なかを明らかにした上で、プログラムを組んでいくことが必要である。

防府市で有名な企業でも、ITになかなか慣れてないところも結構あると昨年から今年にかけて感じた部分があり、きちんと進めていくということが必要である。

山口県全体でいくと、ホームページを活用している企業の数も少ない印象を持っており、本当に何が必要なか、そのニーズを明らかにして、それに対して適切なプログラムを組んで人材を育成していくということが必要である。

【A委員】

中小企業で一番困っているのが、デジタル化に関して何をしたいのか分からないこと。例えば、パソコンで何をすればいいのか分からないとか、Zoomでオンラインをする際にはどのようにするのか分からない。さらに言うと、どこに相談していいのか分からないと困っている方は結構いると思う。

【事務局】

新たにデザインプラザ防府をデジタル推進施設として整備し、相談員等も充実させDXやデジタル化に対応できるようにしていきたいと考えている。

【A委員】

デジタル化について、自社ではデジタルに詳しい者を採用した。デジタル化を進めるのに、何をどこからどんなふうにやるかが非常に難しい。その社員は、優秀でデジタル化を進めていけたが、その時に思ったのが相談できる機関があればいいと思った。デジタル化への投資を手探りながらも行うことで成功体験が生まれ、その体験を活かすことも1つの提案だと思う。

【会長】

デジタル人材育成事業を200万円計上しているが、例えば、どういうニーズがあるのかを把握して、それに基づいてプログラムを組んでいくことが必要である。

【副会長】

デジタル人材について、中小企業がどんなふうに、どこから手つけていいのか分からない状況と、何をしたいか分からないという状況など様々な状況があると思うが、デジタル人材を育成するのは、結局、コンピューターが使える人を育成するだけではなく、企業の中にどういうふうにその情報技術を導入していくかをマネジメントできる人材を作っていないと広がらない。

人材が不足している中で、そういった人材をまず広げていくことが必要である。そのため、企業に、セミナーやデジタル技術を導入するためのマネジメントができる人材を育成することから始めないと広がっていかないと思う。

【会長】

例えば、飲食店で領収書をだすときに、手書きや独立のレジだけで行くと、経営データが取れないことに繋がってくる。それでは経営改善もできないということで、デジタル人材、デジタル化を合わせて、特に中小零細企業で経営データを取って、それに基づいて、分析して、どこに無駄があるのかを把握することが重要となる。

今、デジタル化について、どのように使ったらいいのかイメージすら持てない状況が明らかになったので、そういうことを含めて対応していくということが重要ではないか。

全体的な意見として、カーボンニュートラルでは、例えば、屋上緑化、一つ一つは小さくても、全体でやると結構効果が出てくるかもしれない。それから、徹底した効率化を進めることもカーボンニュートラルに繋がる。また、コロナ禍において、企業の財務上も利益率を高めていかなければいけないなど、喫緊で取り組まなければならないこと、中長期に取り組まなければならないことを分けて、このデジタル化、カーボンニュートラルなどを進めていくことが重要である。

3 防府市中小企業振興基本計画について

【事務局】

～令和4年度 防府市中小企業振興基本計画の変更スケジュールについて説明～

意見等なし

【市長】

～閉会 挨拶～

本日は貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

これから予算執行にあたって、しっかりと反映させていきたい。

A委員からは、モーダルシフトを新たな視点で意見を伺ったので、検討していきたいと思う。また市街化調整区域の問題についても大きな課題と考えている。

C委員、D委員から、創業支援センターについてのご意見をいただいた。11月にグランドオープンするが、時代の要請に応じて、内容も必要に応じて変えていかなければいけないと思っており、まさに創業に繋がるように取り組んでいきたい。

副会長からのカーボンニュートラルのエリアの課題は、これからの課題だと思っている。ISOの問題も、原点に立ち返って取り組んでいかなければいけないと思っている。

E委員からの意見のように、中小企業の償還が大変になってくると思う。国の無利子の融資等にどのように対応していくのか。それから、いろんな補助金等も、非常に補助率が高い中で進んでいるが、通常ベースに戻った時にどのようになるか大きな課題であるので、金融機関、商工会議所と一緒にあって対応していかなければいけないと思っている。

また、デジタル人材について、他の施策もそうだが、ただ実施するのではなく成果を御報告できればと思っている。併せて、プレミアム商品券についても、いかに効果があったかを分析して、今後の景気浮揚対策をしていきたいと思っている。

デジタル化について、我々も、何がデジタル化に良いのか分からない状況で、今年、15の公民館全部で高齢者のスマホ教室を、各公民館で4回ほど行うが、まずは市民の皆様身近なものになってもらうことが必要ではないかと思っている。

そして、中小企業の相談体制が何よりもデジタル化、カーボンニュートラルに必要なと思うので、コネク22の相談員を倍増して2名から4名にして、新年度は取り組んでいきたい。

委員の皆さんから様々な御意見をいただいたので、新年度予算の執行にあたってしっかりと踏まえながら、まさに中小企業の皆さんにとって役立つ施策なるように取り組んでまいりたい。

【事務局】

次回の開催は、令和4年8月を予定。

会議終了 午前11時30分